

Title	サッカークラブ経営についての考察 - 日本における株式上場モデル、ソシオモデルの比較 -
Sub Title	
Author	江良, 明嗣(Era, Akitsugu) 小幡, 績
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2005
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2005年度経営学 第2030号 不可
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002005-2030

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論文要旨

所属ゼミ	小幡績研究会	学籍番号	80430205	氏名	江良明嗣
(論文題名)					
<p>サッカークラブ経営についての考察 —日本における株式上場モデル、ソシオモデルの比較—</p>					
(内容の要旨)					
<p>日本におけるスポーツはあくまで一流企業があたかもパトロンのごとく振る舞うことによつて成り立ってきた部分が多い。いわゆる社会人チームというものが野球、サッカー、バレーボールなどありとあらゆるスポーツを支えている。ところがバブルの崩壊、そしてその後の失われた 10 年と称される長い不況の中、企業の業績悪化し、それに伴いスポーツ支援を中止する企業が増加した。そのため、名門と呼ばれた社会人チームは特に商業的に成立しないスポーツのものから次々と廃部となっていく状況となった。</p> <p>そのような中、日本サッカー界も危機に見舞われていた。アマチュアであった日本サッカー界はまさに商業的に成立しないスポーツの代表格とも言えたのである。その状況を打破すべく日本にいてプロサッカーリーグを立ち上げようという壮大な計画が実行された。そして開幕後ブームを迎えたものの、リーグのバブル的任期は長続きしなかった。幸か不幸か、早期段階において一度危機を迎えたため J リーグ、そして所属する各サッカークラブは大きな経営方針の転換を迫られた。</p> <p>不振にあえぐリーグにもう一度活気を呼び戻したのは地域密着型経営という J リーグ設立当時の理念そのものである方針であった。比較的狭いエリアに親近感や地元感覚を抱かせるようなサッカークラブを推奨する方式を採用することである。この方式は現在のところ J リーグ、そして各サッカークラブチームの業績においても良い影響をもたらしている。ただし、この制度は良い部分ばかりではない。そして J リーグ自体も未だ楽観視できる状況ではない。その大木な理由は様々なメディアの発達による海外サッカーの流入である。残念ながら日本サッカーのレベルは未だいわゆる欧州、南米のトップレベル水準と比較した場合未だ格下である。特に欧州各リーグとの比較においてはその差は歴然である。そのような中、リーグ自体の地盤沈下の可能性も否定できない。</p> <p>本論文では長い歴史を誇り、かつそれを踏まえて新しい試みがすでに実施されている欧州のサッカークラブの運用スタイルをそれぞれのリーグの仕組みなどの違いを十分考慮しながら分析しつつ、日本のサッカーだけでなくすべてのスポーツビジネスの運用主体に活用できる可能性を有するエッセンスの模索を試みる。</p>					